

西条ロータリークラブ 週報



インスピレーションになるう

週報 2018年11月29日 11月第4例会

例会日 木曜日 グランラセーレ東広島

事務局 東広島商工会議所会館3階

会長 山田 謙慈 幹事 奥本 哲之



本日の例会 第2649回

- 12:30 点鐘 (山田会長)
ロータリーソング 「手に手つないで」
忠恕への誘い (平賀職業奉仕委員長)
お客様の紹介 (廣幡副会長)
会長時間 (山田会長)
- 12:40 会食時間
出席報告・スマイルボックス発表
委員会報告
幹事報告
- 13:00 本日のプログラム
会員卓話 光州RCについて他 本田 逸男 国際奉仕委員長
- 13:30 点鐘 (山田会長)

《幹事報告》

★例会終了後、パスト会長会議を開催いたしますので、宜しくお願い致します。

お知らせ

★今後の例会スケジュール

- 12月 6日(木曜日) 中学生英語暗唱大会発表 青少年奉仕委員会担当
- 12月13日(木曜日) 6ヶ月を振り返って(クラブ協議会)
- 12月20日(木曜日) 忘年例会 (於 藤乃家) 18時30分～
- 12月27日(木曜日) 例会休み(年間指定休会)
- 1月 3日(木曜日) 例会休み(年間指定休会)
- 1月10日(木曜日) 3クラブ新年合同例会 グランラセーレ東広島 18:30～

12月：「疾病予防と治療月間」

(Disease Prevention and Treatment Month)

地域社会の医療従事者の能力向上、伝染病の伝播を食い止め、非伝染病とそれによる合併症を減らすための、疾病予防プログラム、地域社会の医療インフラの改善、疾病の蔓延を防止することを目的とした、地域住民への教育と地域動員、疾病またはケガによって引き起こされる身体障害の予防、疾病予防と治療に関連した仕事に従事することを目指す専門職業人のための奨学金支援を強調する月間である。

会長時間 (11月22日例会)



皆さんこんにちは、ご健勝のことお喜び申し上げます。

最近、私のすぐ近くに大変落ち込んでいる友人がいます。心が折れて行き詰まっているようです。このような場合に皆さんならどうやって解消されますか。

私の場合は、ずっと以前からそうですが気に入っている料理屋に一人で行って酔っ払い、じっとその暗い雰囲気には浸りきる、あるいは親しい友人と一緒に飲みながら大話をして発散する、と言うのが常套手段です。だいたい飲んで寝たら忘れます。しかし人によっては、ひどい場合に何日もの間 暗い気持ちで過ごすこともあるでしょう。このような場合、先週お話ししたおうむ返し（うむ返し）の法則とか理路整然と解決法を提示する、と言うことはなかなか通用しません。それではどのような解消法があるのでしょうか。

そんなときの一つの方法は、今までの名言集などをめくって見ることでしょう。あるいは小説の中にそのような言葉がちりばめてあることもあり、そこからヒントが得られます。私の場合、高校卒業後医学部に入学したのですが、そのあと父の存在が大きな壁となりました。これが今までで一番大きなストレスでした。その時に出会ったのがちょうどその頃に読んでいた安部公房の短編小説「壁」でした。そこにパラダイムシフトの大きなヒントがあったわけです。これにより、この最大の壁をのりこえるというより意識しなくなることができました。さて、他にどのような方法があるのでしょうか。

よく知られている格言にはこのようなものがあります。

「朝が来ない夜はない」「雲の上はいつも晴れ」「案ずるより産むが易し」

しかし心がけの悪いものは、これらの反対語を用意しています。「夜は朝のあと来る」「雲の下はいつも雨」「産んだ後に案ずる」

このようなひねくれ者に対しては、さらに上級者の言葉があります。銀座の筆談ホステス齊藤里恵さんのものです。

「難題のない人生は無難な人生。難題のある人生は「有難い人生」」。有難い、とはもともと、あることが稀だ、の意味で、もったいない、感謝すべきだ、という意味に繋がります。

このようなことを思いながら友情を育み、身の回り5ヤードを明るくしていくことが肝要と思います。これがうまくいったらこの二人からニコニコ箱へのご出宝をして頂くことでしょう。ありがとうございました。

西条RC創立55周年記念実行委員会 (11月22日例会)



西条RC創立55周年記念実行委員会設立の御挨拶

実行委員長 小早川 清

来年の5月11日をもちまして西条RCは創立55周年を迎えることとなります。

そのため理事役員会の方で記念行事をすることが決められ、その実行委員会を立ち上げることになりました。

その後実行委員長を私が、副実行委員長を松重さんが務めるよう御指名を受けました。

早速主として松重副実行委員長さんの方で奔走いただいて本日お配りしましたような組織を立ち上げ、理事役員会の方で御承認を受けたところです。

人間で申しますと55歳はそろそろ熟年に差し掛かる年代かと思いますが、若い方も入会

していただいております、今後さらなる若返りをしつつ継続に向けて節目の行事を執り行いたいと思っております。

そのためには皆々様の御協力なくしては何もできません。

皆様の西条RCを愛する心をもちまして一致団結して諸行事を成し遂げたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

例会プログラム (11月22日例会)



幸福の国ブータンに行つて

日本とブータンとの外交関係樹立30周年ということで、広島県立美術館においてブータン展が開催されました。それにちなんで、ひろでん中国新聞旅行という会社がブータンへのツアーを企画しましたのでこれに参加しました。2018年4月19日～25日です。

ブータンという国は中国のチベットが北にあり、インドが東南西を取り巻いています。少し西側にはネパールがあります。人口79万人、九州より少し大きいぐらいの小さい国で、標高は平地で1500～2000メートルぐらいあります。

広島空港から中国東方航空で上海へ、上海から上海航空でタイのバンコクへ、ここで一泊し、翌日ブータンの航空会社の飛行機でインドの空港を経由してブータンのパロ空港に到着しました。正式名称はブータン王国と言い立憲君主制です。

ブータンはチベットとインドとの間の高地という意味ですが、彼らブータンの人にとっては国旗にありますように竜の国だそうです。

ブータンの唯一の国際空港であるパロ空港につきました。山と山の間の空港です。空港に現在の王様と王妃様と息子さんの写真がありました。

パロ空港から首都ティンブーまでこのようなトヨタのマイクロバスで移動しました。

ブータンではやや小型のトラックはみましたが大きいバスはありません。私どものツアーが11名だったのですがこれ以上では困るということになります。

1960年代に初めての国道が完成したとのことでアスファルト舗装がしてあります。しかし時に放し飼いの牛が道路の中を歩き、車は避けて進みます。犬もよく見ますが昼は小さな道などに寝そべっています。いわゆる野良犬で首輪はありません。そもそも殺生してはいけない国です。ただ避妊手術と予防注射はしているようで、済んだ犬は耳を少し切つて見分けるようにしています。

国内交通は車と、国内航空路2線あるだけです。もっぱら歩くか車に乗るかです。

山間の道をぐるぐる回りながら首都ティンブーに着き、市内見学をしました。

これはクエンセルポダン大仏と言いましたが丘の上に建てられています。どこかの仏教国の寄付で建てられたとのこと、かなり大きい像です。この大仏の横に象のレリーフがありました。

会員卓話 小早川 清



お釈迦様が象の脇の下から生まれたとかの伝説があるなど仏教と関係のある動物です。また、馬の上に仏教を表す車輪が乗せられています。馬で仏教を布教して回るという意味です。

この大仏のあたりから首都ティンブーの町を撮りました。人口7万人ぐらいでブータンで一番大きな都市、6階以上の建物はありません。信号はなく、ただ一か所警察官の手信号で交通整理をする交差点がありました。

ブータンにはいたるところこのように風通しの良いところに5色の旗が建てられています。青が空、赤が火、緑が山や木など、白が風、黄色が土を表していてお願いごとをすとかで、これはチベットも共通しているようです。

ブータンはチベット系の民族が大半で亡くなると火葬にして骨は川に流し、墓は作らないとか、一部鳥葬もあるそうです。これは輪廻転生の考え方に通じる風習と説明されました。

なお 余談ですが日本などで仏教の旗として五色旗がありますが色の意味が違っているようです。こちらは緑(青)、黄色、赤、白、黒(紫)です。

メモリアル・チョルテンと言われるものです。チョルテンとは仏塔のことで、ストゥーパ、またはパゴダともいい、本来は仏舎利(釈迦の遺骨)を安置した塔のことだそうで、日本の五重塔などもこの仏塔の形式の一つだそうです。私どもの横にいる人が現地ガイドさんです。その境内の中にあつた建物で、大きなマニ車がありました。この国の仏教はチベット仏教の一派です。

タチチョ・ゾンと呼ばれる建物です。ブータンの中央行政庁舎ですが県庁でもあり、さらにブータン仏教の総本山でもあるといわれました。これはその中庭です。このゾンと呼ばれる建物は各地方にあり、元は砦でしたが今は県庁となっています。したがってこのタチチョ・ゾンも県庁の一つですが中央庁舎でもあるということです。すぐ近くに王宮があり、王様が執務をする部屋もあるとのことでした。又仏教の総本山ということでしたが、中は区切られていて現在は政教分離されているとのことでした。近くの王宮は写真を撮ってはいけないといわれました。

このタチチョ・ゾンの近くに国会議事堂がありました。初めての選挙は2005年、先代の第四代国王が始めましたが、最初は王政の長かった国民にとって選挙の意味が分からなかったそうです。

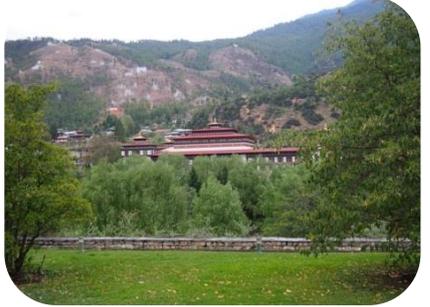
そこで王は各地を回って民主主義を説き、2008年憲法が公布され王の定年制や女性の王も認めるといったことなどを決めたということです。

したがって今は立憲君主制の国ということになり、最近では女性の地位も向上し、保育所もでき、又女性の大臣も1人おられるそうです。

この日現在の首都となっているティンブーから以前の都であるプナカへ移動しましたが、途中のドチュラ峠で休みました。標高3000メートルありますが、そこに108つのストゥーパがありました。中にお経が入っているそうです。日本の除夜の鐘で108つ打ちますが多分関係があると思いましたが、ガイドさんはこれらをお守りと説明していました。

晴れて見晴しの良い日はここから7000~7500メートル級のブータンのヒマラヤが見えるそうですがこの日は見えませんでした。

このドチュラ峠には天然のシャクナゲがたくさん咲いていまし



たが、その峠の近くでシャクナゲ祭りをしていました。これはセレモニーの様子です。

仏教学校の生徒さん達が歓迎の踊りをしています。仮面踊りが2つありました。

ブータンの民族楽器での演奏もあり、済んだ素朴な音が山々に響き渡りました。

私どもは早くからこの会場に来ましたので、来賓席のようにイスとテーブルが用意され、このようなバター茶とお米を使ったお菓子がふるまわれました。

シャクナゲ祭りに来た現地の人たちは少しオシャレをしているように見えました。

以前の都であるプナカにつきました。これは県庁のプナカ・ゾンです。人口は3万人ぐらいで、日本でいえば首都ティンブーが東京ならプナカは京都にあたる町で1950年ごろ遷都したとのことでした。

プナカ・ゾンの中です。数日後に行事があるため屋根のところにヒラヒラの旗が飾られていました。

これは行事のための練習が済んで若い僧たちが中の広場に出てきたところでした。実は数年前夫婦で来日された第五代のワンチュク王の結婚式はここで行われ、王の交代式もここで行ったそうです。

プナカの町の周辺の風景です。

プナカの町の中です。ブータンでは三都市に行きましたが、町中はどこもこんな感じでした。いわゆるコンビニやスーパーはありません、市場はありましたがこのような小さな雑貨屋や土産物店があり、自動車とタクシーと小さな路線バスがありますが、自転車やバイクはあまり見ませんでした。歩くということが多いように思われました。

ブータンの産業は主力が水力発電でインドに売電しています、次が観光、次が農業で60パーセントの国民が従事しているとのことでした。お米、麦、そば、リンゴ、乳製品、ジャガイモ、野菜など。

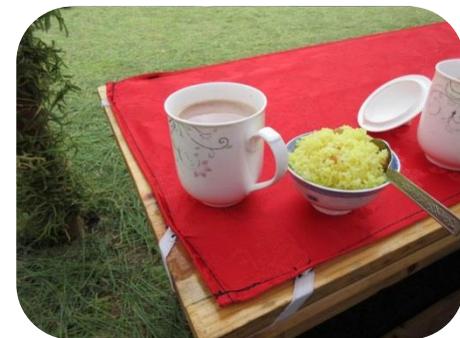
しかし、最近の若い人は町に出ていくそうですが仕事が十分ないとか、建築現場ではインドからの労働者が働いていました。

プナカの町の学生さんです。普通学校に行くときはこのような民族衣装です。しかし家に帰るとTシャツのような楽な服を着るようです。家族はだいたい5人程度で、義務教育はありませんが中学校まで無料、又医療費も無料ですが国立病院などでは2～3時間は待つようだとのことでした。

この写真を撮るとき、「May I take the picture.」と言いましたら撮らせてくれました。実は各看板は現地語もありましたが、必ずと言っていいほど英語で書かれています。現地語はむしろ難しいため、英語を教育しているとガイドさんは言っていました。

これはプナカで宿泊したホテルです。

ホテルで出されるブータン料理は基本的にこのようなビュッフェ方式(日本ではバイキング方式)です。いわゆる長粒米のごはん、タマゴ焼き、ブタ肉かトリ肉、ジャガイモ、キャベツのブツ切りをいためたものなどの野菜、そしてトーガラシです。食べ物としては日本人の私にとってもそれほど違和感はありませんでしたが、水道の水は飲めないようで飲みませ



んでした。

風呂に入ろうとしましたら掃除がされてなくて、前の人が使ったバスタオルがそのまま投げられていたので添乗員さんを通じて掃除をしてもらってシャワーだけ使いました。

プナカの郊外にあるチミ・ラカン寺まで散策しました。

いわゆる段々畑や田が続いています。牛を使って荒起こしをしているらしいところや、小さい耕運機らしきものもみましたが、クワで耕している姿も見ました。このプナカはブータンで最も米が多く取れるところです。

このチミ・ラカン寺は15世紀に建てられたもので子宝の寺として信仰を集めています。

この寺の門前にある土産物店に陳列してあったものです。同じく門前にあった店の壁にこのような、ややドキッとするような絵が描かれていました。その由来についてガイドさんは、この寺を建てた僧が人々に仏教を説くときの手段としてこのようなことを題材に話したと説明された。そして現在子宝に恵まれるよう人々がお参りしています。

この日古都プナカから最初に着きましたパロ空港のあるパロまでバスで帰りました。これはパロ・ゾンです。

パロにあるブータン最古の寺キチュラ・カンです。7世紀に建てられた寺院でこの頃ブータンに仏教が入ったようです。

その後、日本の江戸時代ごろチベット国内で宗教戦争が起こり、その戦いに敗れた一派がブータンに逃げてきたそうです。しかしやがてブータン国内でも宗教争いが起こり、やっと1907年その中の強い一派が統一を図りました。それが現在につながる王朝の第一代王となっており、国として独立しました。現在は第五代です。

パロで2泊したホテルです。コテージのようなものもありました。大きな風呂でしたが、最初の日には湯が出て次の日は出ませんでしたので顔と手を洗って寝ました。

ホテルの近くの田園風景です。国民の60パーセントは農業に従事していると言いましたが、経済はやはり貧しく外国からの援助を受けているとのこと。特にインドからの支援は大きく、軍事、経済両面にわたっています。日本もJICAを通じて支援を行っています。しかし彼らブータンの人々にとって有名なのは、日本でオリンピックのあった1960年代に西岡さんという人が農業とその販売について指導したことだそうです。

そんな国ですが、数年前の東日本大震災では支援金を送ってくれました。

ブータン最後の日には標高3000メートルのタクツアン寺院に登りました。徒歩で往復5時間かかります。これは寺院に行くときの山ですが、木があまりない山もあります。

遠くに雪をかぶっている山があります。4000メートル級ですがこの程度では名前もついていないそうです。

目指すは中央にあるややとがった山の上にある寺院です。ふもとの町の標高が2000メートル、バスを降りたところが2500メートルです。

これが少し手前のところです。ツアーの婦人たちで右端の人が日本からの添乗員、あとはやや年輩の御婦人たちですがなかなかの健脚です。観光客は日本人は少なく、欧米人やインド人が多くいました。

タクツアン寺院はこんなところに建っています。標高3000



メートルのところであり、昔えらい僧がトラの背中に乗って現れ、瞑想したという伝説の寺です。

下山して疲れた体でしたが、町の中の織物工場を見学しました。絹の手織り作業です。

これは町中の民家らしきものを建築しているところです。あまり地震はないとのことですが全くないこともないと言われました。

さて、世界の国々がGDP(国内総生産)を挙げることに力を注いでいる中、第四代国王は国民総幸福 Gross National Happiness (GNH) の考え方を打ち立てました。2011年の国連総会でこの考え方が採択されて、一躍幸福の国ブータンとして知られるようになりました。

目標とするところが物質の豊かさを追わず、どちらかという心と心の豊かさを求めるということのようです。

この日、ホテルではプロの舞踏団による踊りを披露してくれました。

ガイドさんの言われるところによりますと、仏教の影響があると思いますがと断って、第四代国王は国民総幸福を高めるために4つの指針を打ち立てたそうです。

1. 文化、伝統を大切にする。
2. 環境を大切にする。
3. 産業を興し平等に分ける。
4. 政治を安定させる。

ブータンは長い間鎖国のような状態でした。資料によりますと、1971年国連に加盟、1974年初めて外国人観光客を受け入れ、日本とは1980年代に国交を結び、1999年初めてテレビを入れたとか。その遅れのため交通の便の悪いところは貧困になっているそうです。

さてブータンにロータリークラブがあるかということですが、2012年に首都ティンプーの名をとってティンプーロータリークラブがRIから認証を受けています。地区としてはネパールと同じ第3292地区に入るとのことです。

それではブータンは幸福の国かどうかです。現地ガイドさんは一度、日本に来たことがあるそうです。東京に行ってみるとアスファルトとビルばかりで驚いたとか、又生のサシミが出て食べられなかったとか。広島にも来られて山があつて少しほっとしたとか、そしてブータンのパロ空港が近づくとも早く降りたかったそうです。彼にとってブータンは幸福の国です。

私にとっては、日本に帰って水道の水が飲める、安心して生野菜やサシミが食べられる、日本語が通じる、保険証があれば診察、治療してもらえらるということで日本が幸福の国でした。

ロータリーの友という雑誌に幸福な国のことが少しのっていました。

国連で世界幸福度ランキングを毎年発表しているそうですが、その国の自由度、一人当たりの生産性、政治、経済、福祉の状況などを総合的に判断してランク付けをするのだそうです。日本は2016年で53位、主要7か国で最下位とのこと。

世界一幸せな国は、デンマークで人口570万人、北海道の半分の国土しかありません。

著者はデンマークに行つて次のように感じたと言っています。

1つが、国民1人当たり3つくらいの趣味の会に入っているとのこと、スポーツ、芸術、料理などです。そして地域で上下なく交流している。

2つが、全国民の半分以上が何らかのボランティアに参加しているそうです。人のために支える人と支えられる人が幸せになる。と言っていました。

そこで私が思いますには、当然その土台にあるのが政治の安定、経済の安定、ある程度の医療と福祉の制度の充実があつてのことです。

それではブータンということですが、第四代国王の導かれた結論は、ブータンという国はまだまだハード面での経済発展が必要であり、医療、福祉と色いろ不十分な点がある。

しかし、目指すところは物の豊かさより心の豊かさを重視し、自然豊かな環境を守ろう、そして民主化を図ろうであつたと思います。

そして今の第五代国王もその考え方を継がれているように思います。



★地区功労賞贈呈式

2017-2018年度 グループ8 前垣ガバナー補佐

★連続100%出席者表彰

安武 会員 (11月16日) 1年

スマイル・ボックス (Smile Box) 11月22日例会出宝分

本例会:16,000円

(今年度累計金額462,000円)

★全会員:広島カーブ、感動をありがとう。

★高原会員:長男 琢磨が11月17日(土曜日)に結婚しました。離れを改修して、同居することになります。四月から一級建築士として仕事を一緒にしております。これからは、お嫁さんが加わり、大家族で賑やかになります。

★菅生会員:11月30日(金曜日)、当社の3店舗目となるセブン-イレブン大沢店をオープンします。東広島運動公園そばの店です。宜しくお願いします。

出席報告 (11月22日例会)

出席の補填(メイクアップ)

クラブの例会に出席できなかった場合には、例会前後の14日以内に他のロータリークラブの例会に出席すること。出席補填は、訪問先での出席証明を受け取り、自クラブに郵送または直接幹事に提出または申告することで完了します。

近隣ロータリークラブ 休会/例会変更

(例会変更時のみ、受付メイクアップ可能)

受付メイクアップ(12:00より30分間)の際は会員証を呈示し、氏名を自署(代理者不可)する。同時間2カ所以上で実施の場合、1カ所でのメイクアップのみ有効。

- ★11月30日(金) 広島南RC(例会変更) 受付:リーガロイヤルホテル広島
- ★12月3日(月) 東広島21RC(休会) 受付メイクアップなし
- ★12月17日(月) 東広島21RC(例会場所変更) 受付:グランラセーレ東広島
- ★12月17日(月) 広島中央RC(例会変更) 受付:リーガロイヤルホテル広島
- ★12月17日(月) 広島廿日市RC(例会変更) 受付:広島サンプラザ
- ★12月18日(火) 東広島RC(例会変更) 受付:グランラセーレ東広島
- ★12月18日(火) 広島西南RC(例会変更) 受付:ANAクラウンプラザホテル広島
- ★12月18日(火) 広島安芸RC(例会変更) 受付:ホテルグランヴィア広島
- ★12月19日(水) 広島東RC(例会変更) 受付:ホテルグランヴィア広島
- ★12月19日(水) 広島空港RC(例会変更) 受付:広島エアポートホテル
- ★12月24日(月) 東広島21RC(休会) 受付メイクアップなし

◆会員数 38名 ◆出席者 31名
 ◆来訪者 0名 ◆欠席者 4名
 ◆免除者 3名
 ◆11月8日の欠席者 5名
 ◆メイクアップ 4名
 ★出席率 97.36%
 ★通算出席率 99.47%

西条ロータリークラブ

創立 1964年5月11日 例会日 毎週木曜日 12時30分~13時30分

事務局 東広島商工会議所会館3F 東広島市西条中央7-23-35

TEL(082)420-0320 FAX(082)420-0319

西条RC公式ウェブサイト <http://www.saijo-rc.jp> メール saijorc@eagle.ocn.ne.jp

会長 山田 謙慈 副会長 廣幡 勝祐 幹事 奥本 哲之 副幹事 菅生 一郎